

商品名： **アロンブルコートT-300**

トータルメンテナンスに貢献する

東亜合成株式会社 機能製品事業部  
 〒105-8419 東京都港区西新橋 1-14-1  
 TEL.03(3597)7341 FAX.03(3597)7297

種 別	2液反応硬化形溶剤系アクリルウレタン樹脂塗料
-----	------------------------

## 1. 使用目的

アロンブルコート T-300 は、アクリルウレタン樹脂をベースとした 2 液反応硬化形溶剤系塗料です。アロンブルコート A-100 の上塗材として使用します。

## 2. 特 長

耐候性や耐久性に優れたアクリルウレタン樹脂を主成分としているため、1 液形塗料に比べて、長期にわたって光沢を保持し、耐寒性にも優れます。

## 3. 性 状

項 目	主 剤	硬化剤	シンナー
成 分	アクリルポリオール	ポリイソシアネート	トルエン・キシレン主体の有機溶剤
固形分 (%)	約 61	約 29	—
粘度 (mPa・s)	約 2,200	約 20	—
液比重	約 1.14	約 0.97	約 0.87
消防法危険物	第 4 類第 1 石油類	第 4 類第 1 石油類	第 4 類第 1 石油類

※主剤は淡彩色の数値を示しています

## 4. 荷 姿

材料名		15kg セット
アロンブルコート T-300	主 剤	12kg/缶
	硬化剤	3kg/缶
アロンブルコート T-300 用シンナー		14kg/缶

## 5. 施工方法

### 5.1 配合

施工方法	粘度 (秒)	容積配合 (ℓ)		質量配合 (kg)	
	岩田 NK-2 型	主材+硬化剤	シンナー	主材+硬化剤	シンナー
エアスプレー	16~20	10.3+3.2=13.5 (12kg/缶+3kg/缶)	約 8~10 (0.5~0.6ℓ/缶)	12+3=15	7~9
エアレススプレー	18~22	10.3+3.2=13.5 (12kg/缶+3kg/缶)	約 7~9 (0.5ℓ/缶)	12+3=15	6~8
ローラー刷毛 刷毛	18~22	10.3+3.2=13.5 (12kg/缶+3kg/缶)	約 7~9 (0.5ℓ/缶)	12+3=15	6~8

※塗装可能面積：約 50m<sup>2</sup> (主剤+硬化剤)

※アロンブルコート T-300 は、必ず専用のアロンブルコート T-300 用シンナーで希釈して下さい。

他のシンナーを使うと硬化が遅れたり、硬化しない場合があります。

※塗装器および使用の際の気温によって粘度が変わりますので、粘度計(岩田塗装機(株)NK-2 型粘度計)を使って、上表の様に粘度調整を行って下さい。なお、同表に粘度計を使わない場合の目安を記載します。

### 5.2 標準使用量

	施工方法	標準使用量 (kg/m <sup>2</sup> )
1 回目	塗布・吹付け	0.15 (0.22)
2 回目	塗布・吹付け	0.15 (0.22)

※使用量にはうすめ液の量は含みません。

※( )内は希釈品の使用量を示す

### 5.3 可使時間・硬化時間

乾燥時間は、塗布量、気温、湿度、風通しの程度により異なります。次の工程に移る場合は、中塗材の乾燥成膜を確認の上行って下さい。塗り重ね間隔が短いと、特に、ローラー、刷毛塗りの場合、1 回目の塗膜を破ったり、たれを起すことがあります。

		可使時間 (時間)	1 回目と 2 回目の塗装間隔 (時間)
厳寒期	0~5	20 以内	1~48 以内
冬期	5~15	10 以内	1~48 以内
春・秋期	15~25	8 以内	0.5~24 以内
夏期	25~35	4 以内	0.5~24 以内

※塗り重ね間隔が上表の上限を超えると、1 回目塗膜にリフティング(縮み)が発生する場合があります。そのため、確認の上、2 回目を塗布して下さい。

### 5.4 標準施工方法

中塗材の乾燥確認後、吹付けまたはローラー刷毛、刷毛にて 2 回に分けて施工して下さい。

なお、スプレーガンは噴霧の良いガンを使用して下さい。

中塗材は、表面が凹凸のパターンなので、「タテ」「ヨコ」十分に塗装し、塗り残しのないように注意して下さい。また、スプレーガンと壁との距離は常に一定にしてガンを操作して下さい。ローラー刷毛および刷毛塗りの場合、特に塗り残しのよう注意して下さい。

## 6. 性能

試験項目		測定値	試験方法
60° 光沢		85～90	JIS K 5400 7.6
伸び率 (%)	20℃	160～180	JIS K 6909 6.31
	-10℃	50～60	JIS K 6909 6.31
温冷繰り返し試験		異常なし	JIS K 6909 6.11, 50 サイクル

※アロンブルコート A-100 との組み合わせによる試験

※上記データは実験値であり、保証値ではありません。

## 7. 使用上の注意事項

### 7.1 本剤特有の注意事項

- ①主剤と硬化剤の混合、シンナー希釈後は可使時間内にできるだけ早く使用して下さい。
- ②主剤、硬化剤およびシンナーには水分、異物など入らないように気をつけて下さい。
- ③主剤、硬化剤およびシンナーは直射日光を避け、冷暗所に保存して下さい。開缶後は密栓して下さい。
- ④主剤、硬化剤およびシンナーには、有機溶剤が入っているため、使用の際には火気厳禁および換気に十分注意して下さい。
- ⑤硬化剤は反応性のイソシアネート化合物が主成分です。直接皮膚に付けたり、眼に入らないよう取り扱いの際にはゴム手袋、保護メガネ等を着用して下さい。
- ⑥塗装に使用した塗装器具は、アロンブルコート T-300 用シンナーで必ず洗って下さい。使用後放置すると硬化し、再使用できなくなります。
- ⑦主剤を缶より一部取り出して使う場合、保管中に主剤中の顔料とワニスが分離している場合があるので、あらかじめ主剤を良く混ぜ、天板に指示した色になってから取り出して下さい。また、計量した硬化剤と混合してシンナーで希釈し再度十分に攪拌して使用して下さい。
- ⑧降雨降雪または、降雨降雪が数時間後に予想される場合は施工しないで下さい。
- ⑨夜露あるいは著しく高湿で結露が予想される場合は施工しないで下さい。
- ⑩50℃以上および 5℃以下での施工および 0℃以下での保存は避けて下さい。
- ⑪使用前に十分攪拌し、均一にしてからお使い下さい。
- ⑫強風時には材料が吹き流されたり、ミストの飛散による支障が起こり易いので施工には注意して下さい。

### 7.2 安全上の注意事項

本材を使用するに当たり、以下の点に十分留意して下さい。

- 引火性の液体である
- 有機溶剤中毒の恐れがある
- 健康に有害な物質を含有している

安全に取り扱うために、以下の点を守って取り扱って下さい。

### 7.2.1 取り扱い方法

- ①火気のあるところでは使用しないで下さい。
- ②取り扱い作業場所には、局所排気装置を設けて下さい。
- ③塗装中、乾燥中とも換気を良くし、蒸気を吸い込まないようにして下さい。
- ④取扱中は、できるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて有機ガス用防毒マスクまたは送気マスクを付け、更に頭巾、保護メガネ、長袖の作業衣、えり巻きタオル、保護手袋等を着用して下さい。
- ⑤取扱い後は、手洗いおよびうがいを十分に行って下さい。
- ⑥作業衣に付着した場合には、その汚れをよく落として下さい。

### 7.2.2 救急処置

- ①皮膚に付着した場合には、多量の石けん水で洗い落とし、痛みあるいは外観に変化があるときには、医師の診断を受けて下さい。
- ②目に入った場合には、多量の水で洗い、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ③蒸気、ガス等を吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- ④誤って飲み込んだ場合には、できるだけ早く医師の診察を受けて下さい。
- ⑤火災時には炭酸ガス、泡または粉末消化器を用いて下さい。

### 7.2.3 貯蔵保管方法

- ①よくフタをし、一定の場所を定めて貯蔵して下さい。
- ②子供の手の届かない所に保管して下さい。
- ③40℃以下の一定の場所を定めて貯蔵して下さい。

### 7.2.4 廃棄方法

- ①容器からこぼれた場合には、布で拭き取り、その布は産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。
- ②塗料の付着したウエスや塗料カス、スプレーダスト等は、産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。
- ③中身を使いきってから廃棄して下さい。
- ④本材を廃棄する場合は、産業廃棄物処理業者に処理を委託して下さい。

### 7.2.5 誤使用

- ①本来の用途以外（シンナー遊び、汚れ落とし等）に使用しないで下さい。
- ②指定された以外の材料と混合しないで下さい。

※安全に施工を行うために、必ず「安全施工マニュアル」を参照して施工を行って下さい。

※さらに詳細な内容が必要な場合には、製品安全データシート(MSDS)をご参照下さい。

以上